

祝詞

礎は輝かしい半世紀の遺産



関西大学

学長 石川 啓

関西大学体育会レスリング部では、この度めでたく創部50周年を迎えられ、この記念すべき佳節に『関西大学レスリング部50年史』を刊行されますことは、まことに慶賀に堪えません。現役の部員諸君をはじめ、苦楽をともにしてこられたOB諸氏も挙ってお慶びのことと思います。

一言で50年と申しましても実に半世紀、関西大学の111年の長い歴史の中で、その半ばにも及ぶこの半世紀には、幾多の苦節と栄光が重なり合っていることでしょう。

レスリング部の創部は昭和23年ですが、当時なお戦後の荒廃の中にあったことを思い起こしますと、その世情での部の結成には随分のご苦労があったものと拝察されます。当時のエピソードを承りますと、レスリング愛好者の輪が膨らんで、相携えて長い準備を積んで、呱呱の声を挙げられた様子がありありと想起されます。

このスポーツは、発祥を古代のギリシャに溯る格闘技であります。戦後の衣食住にも事欠いた当時、この格闘技に興味をもち相集ったということに、私たちはいつの時代であっても、青春の迸るような情熱のもつ創造力に改めて目を見張るものがあります。事実その無限ともいえる可能性が、

国内の学生スポーツ界だけにとどまらず、国際的な舞台やオリンピックを制するみごとな実績となつて、大輪の花を開かせたことに繋がったのでありましょう。そのそれぞれの時代に主役や脇役を演じた、多くのOB各位の胸中には珠玉のような誇らかな想いが残り、この『50年史』を完成されたものと思います。

人の世に栄枯盛衰は避けられぬ定めの中で現在は雌伏する風雪の期にあるのでしょうか。しかしこのような時にこそかえって大きな夢を描けるのだという豊かな生命力に期待したいものであります。

50年間のレスリング部の活躍が改めて青史として上梓された『関西大学レスリング部50年史』は、輝かしい半世紀の遺産を誇らしげに語っているではありませんか。これこそ未来に向かって飛翔するための「礎」そのものでありましょう。

そして礎は言わば踏み台でもあります。後進が先人の残したこの豪華絢爛たる「礎」の上に立って、より高い目標に向かって精進されることを切望しておりますが、この『レスリング部50年史』が、そのためにきつと大きな神通力を発揮することをも信じて疑わないものであります。